

第1回プラン策定会議（平成28年10月25日）議論のまとめ

1 知事挨拶

会議の冒頭に、知事から以下のような発言がありました。

- 都知事就任からこれまでの間、都政の様々な課題を掘り起してきたが、これからどういう方向性にまとめていくのか、その道筋を具体的に示すのが、「2020年に向けた実行プラン（仮称）」である。
- 「セーフ シティ」「ダイバーシティ」「スマート シティ」の「3つのシティ」を集約して、「新しい東京」「新しい都政」を創ることが都民の皆様とのお約束である。
- 激化する国際的な都市間競争、日本経済のエンジン役、さらには東京2020大会を控えているという段階において、実行プランは大きな土台となる。
- 都民の皆様が希望を持つからこそ安全・安心で、希望を持つからこそ多様性を育む。希望があるからこそ、新しい産業を創っていく。そして、日本の成長の牽引役として、世界の中で輝き続ける、持続可能な東京を創り上げていきたい。
- 2020年は一つの区切りであるが、そこだけを見るのではなく、2025年という団塊の世代が後期高齢者になる局面を迎える点も見据えて、4年間をどのように設計するかが問われている。
- オール都庁で策定していくということが大事である。思い切って新たな発想で、都政の課題に積極果敢に取り組んでもらいたい。短期間であるが、庁内の英知を結集して、新たなプランを策定し、それを都民ファーストの視点に立って進めていきたい。
- プレゼンテーションの仕方も、より都民の皆様方に伝わる工夫をしていきたい。ぜひ、都民の皆様方と共感や共有ができるような都政を目指していきたい。

2 プランのコンセプトについて

「セーフ シティ」「ダイバーシティ」「スマート シティ」の「3つのシティ」を実現し、「新しい東京」を創り上げるというプランの策定の意義と、今後、3つのシティに基づいて各政策における目標や4か年の具体的な政策展開などをまとめていくことを確認しました。

3 主要政策について

「セーフ シティ」「スマート シティ」の主要政策について、各局から説明し、意見交換を行いました。

(1) 防災対策（セーフ シティ）

木造住宅密集地域の不燃化・建築物の耐震化、無電柱化、発災時の初動体制や物資調達などの災害対応力の強化、消防団・町会などの地域の防災力の向上などについて議論を行いました。

議論では、都民に明快に分かるような政策目標を設定すべきなどの意見がありました。

(2) 経済活性化（スマート シティ）

国際金融都市の実現に向けた様々な取組、特区制度等の活用による外国企業誘致、成長産業分野の育成、IoTなどの先端技術を活用した新たなイノベーションの創出、起業・創業の活性化、中小企業の海外展開、農林水産業の振興などについて議論を行いました。

議論では、東京 2020 大会を契機とした産業の活性化や企業間連携の強化、国際金融都市の実現に向け国と連携した特区の徹底活用などについて意見がありました。

(3) 観光、文化、交通（スマート シティ）

東京の魅力のブランド化、インバウンド対応力の向上、観光資源の開発、東京文化プログラムの展開、芸術文化拠点の魅力の向上、公共交通ネットワークの充実、羽田空港の機能強化、道路ネットワークの充実、都営交通の魅力向上、水上交通ネットワークの充実などについて議論を行いました。

議論では、都営バスにおける燃料電池バスの導入の促進、地下鉄駅のバリアフリー化などについて意見がありました。

最後に知事から、プランの策定に当たって、それぞれの取組に係る工程表を作成し、来年度予算に盛り込んでいくよう指示がありました。

また、プランでは、今後東京が何を目指してくのか、何を実施していくのかを分かりやすくまとめなければならないとの発言がありました。

さらに、あらゆる政策を総動員して、激化する国際的な都市間競争に打ち勝っていきたいとの発言がありました。